

はじめに

総括班では、毎年一度、シンポジウムを行うことになり、初年度には「文明の地域性」と題して、平成6年3月2日および3日の両日にわたって、東京大学山上会館において、各クラスターを代表して6名の報告者から話題提供をして頂いた。議論された内容は広い幅にわたり、問題領域の大きさを示すと同時に、それらを結ぶ共通性の内在が確認された。

平成6年度には、焦点を生態環境に絞って、「地域と生態環境」というテーマを設定し、このテーマを本来の計画班テーマとするA01班（研究代表者：荻野和彦）と「地域発展の固有論理」を担当するA03班（研究代表者：原洋之介）の共同作業によって、全体の構成が検討された。シンポジウムは、平成7年3月2日と3日にわたって、前年と同じように東京大学山上会館で開催された。

ここに掲載するのは、その時の記録である。それぞれの分野で、総合的地域研究へのアプローチをめぐって真剣な検討が行なわれていることが、この記録にも明確に現れている。専門領域を超えたところにまで議論が発展することが、この重点領域研究の目標の一つであるが、その目的を意識しながら報告と検討が行なわれた。関係者に感謝の意を表するとともに、今後ますます研究が進展することを念じる次第である。

文部省重点領域研究「総合的地域研究」
領域代表者 坪内良博